

令和 7 年度第 1 回大曲地域協議会会議録

令和 7 年 6 月 2 0 日

大曲地域協議会

令和7年度第1回大曲地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	1
■会長あいさつ	2
■企画部長あいさつ	2
■協議	
(1) 会議録署名委員の指名	3
(2) 地域課題（自主審議テーマ）の協議について	3
(3) はなび・アム及び南側駐車場の活用について	6
■報告	
(1) 「はなび・アムと周辺の取り組み」について	9
(2) 令和6年度地域枠予算の活用実績について	9
(3) 令和7年度地域枠予算の活用状況について	9
■その他	10
■閉会	11
■署名	11

■日 時：令和7年6月20日（金）午後6時11分

■会 場：花火伝統文化継承資料館（はなび・アム）大研修室

■出席委員：10名

鎌田 俊、久保田 健一郎、後藤 仁美、深谷 成男、打川 元喜、
佐藤 毅、生田目 マキ子、細井 陽子、松塚 孝治、長屋 奈恵子

■欠席委員：4名

根田 朋子、佐藤 芳紀、塚田 兼一、戸嶋 真紀子

■出席職員：6名

佐々木 英樹（企画部長）	高橋 靖弘（地域活動応援課長）
高橋 マユミ（地域活動応援課主幹）	菅原 廣也（地域活動応援課主幹）
進藤 尚人（地域活動応援課主任）	松井 遥菜（地域活動応援課主事）

■次 第：

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 企画部長あいさつ
- 4 議 題
 - （1）会議録署名委員の指名
 - （2）地域課題（自主審議テーマ）の協議について
- 5 報 告
 - （1）「はなび・アムと周辺の取り組み」について
 - （2）令和6年度地域枠予算の活用実績について
 - （3）令和7年度地域枠予算の活用状況について
- 6 その他
- 7 閉 会

（午後 6時11分 開会）

○事務局(高橋主幹)

本日はお忙しいところ、またお暑い中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

定刻を少し過ぎましたが、ただ今から令和7年度第1回大曲地域協議会を始めさせていただきます。

はじめに、鎌田会長よりごあいさつをお願いします。

○鎌田俊会長（以下、会長と表記）

皆さんこんばんは。梅雨入りしたにも関わらずとんでもない暑さが続いていますけれども、東北はまだ救われているかなと感じています。今日も大阪・関西万博の会場では救急車で運ばれている方がいるかもしれません。この異常気象という言葉がもう何年も前から使われるようになって、異常という状態がずっと続くと異常ではなくなって、通常、正常となってしまう自然の恐ろしさを最近本当に感じている状況です。

本日はこの暑さの中、よく参加していただきましてありがとうございます。

この地域協議会も丸2年が経過し、私は2期目で任期6年目ですけれど、任期の最終年度を迎え、14名でやる協議会に残り1年です。今までの2年間のグループ協議の結果、自主審議テーマも大体着地点が見えてきてやるべきことは決まっていますので、訂正なり、肉づけなり、いろんな面で精度を高めていく1年になると思います。

3年目の方も6年目の方もこの1年間、いろいろな面で更なる協力をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局(高橋主幹)

続きまして、佐々木企画部長があいさつを申し上げます。

○佐々木企画部長（以下、企画部長と表記）

この4月から企画部長を務めております、佐々木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、令和7年度第1回目の大曲地域協議会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。皆様にはそれぞれのお立場から、地域課題の解決に向けた話し合いや各種計画・施策へのご提言など、特段のご理解とご協力をいただいておりますこと、この場をお借りいたしまして心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

また今年3月22日には、大仙市誕生20周年の記念式典がございました。委員の皆様には多数ご出席をいただき、ありがとうございます。

さて令和4年度より実施しております彩色千輪プロジェクト事業につきましては、大曲地域では、ここはなび・アムを拠点といたしまして、賑わいの創出に取り組んでおります。本日は、彩色千輪プロジェクト事業と地域振興事業、いわゆる地域枠予算の令和6年度の事業実績並びに令和7年度の取り組み内容についてご報告させていただきます。今年度も委員の皆様からご意見を頂戴しながら事業の方向性を検討して参りたいと考えております。

また今年度は、第5期交通計画の策定年度となっております。昨年度皆様から頂戴しましたご意見なども参考にして計画の素案を作成し、まとめ次第ご報告させていただく予定でございます。

今後とも大仙市、そして大曲地域を元気にするため、皆様と地域が抱える課題や問題を共有し、その解決に取り組んで参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局(高橋主幹)

ここで、新しい年度が始まりましたので職員を紹介させていただきます。

○事務局(高橋課長)

私の方から本地域協議会の事務局職員を紹介させていただきます。

【地域活動応援課職員を紹介】

○事務局(高橋主幹)

それでは会議に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 配席図
- ・ 資料No.1 本日の協議の進め方
- ・ 資料No.2 地域課題協議シート（A班）
- ・ 資料No.3 はなび・アム及び南側駐車場の活用について
- ・ 資料No.4－1 「はなび・アムと周辺の取り組み」令和6年度事業実績及び令和7年度取り組み
- ・ 資料No.4－2 「はなび・アムと周辺の取り組み」令和7年度取り組み
- ・ 資料No.5 令和6年度地域枠予算活用事業一覧
- ・ 資料No.6 令和7年度地域枠予算活用事業一覧
- ・ 資料No.7 地域づくり事業補助金

以上でございます。お手元に無い場合はお知らせ願います。

このあとの進行については、大仙市地域自治区の設置等に関する条例第8条第4項の規定により、鎌田会長にお願いします。

○会長

本日は、根田朋子委員、佐藤芳紀委員、塚田兼一委員、戸嶋真紀子委員から欠席の届け出がされまして、出席委員は10名です。委員の2分の1以上の出席が確認されておりますので、会議は成立しております。

次に議題に入ります。議題の1、会議録署名委員を指名いたします。本日の署名委員は深谷成男委員と松塚孝治委員にお願いいたします。

○会長

続きまして、議題の2、「地域課題（自主審議テーマ）の協議について」を議題といたします。事務局から、説明をお願いします。

○事務局(高橋主幹)

【資料に基づき説明】

○会長

ありがとうございます。ただいま事務局から、地域課題の令和7年度の取り組みについて説明がありましたけれども、皆さんからご提案とご意見等がございましたらお願いします。質問でも結構です。

○深谷委員

横丁盛場キンギョのオープンカツを食べたことがあります。その時汁物として出てきたのは味噌汁でした。定食としては味噌汁でよいかもしれませんが、お吸いものやスープ類でもよいのかなと感じました。オープンカツ単体で進めるよりも、オープンカツに合う汁物と一緒に検討してみてもよいのかなと思いました。

○会長

実際にオープンカツを扱っているお店の汁物はどうなのでしょう。

○事務局(高橋主幹)

後藤委員のお店ではどうですか。

○後藤委員

私の店は商工会議所まつりの日限定で提供していて、普段は提供していません。カレーは元々メニューとしてありますが、カツを揚げるのがネックでフライヤーがないとお店で常に提供することは難しいです。

○松塚委員

私はオープンカツの量が多く感じます。

○会長

老人から子どもまで食べられるようなバリエーションを考えれば対応できるのかなという意見が以前に出ていましたので、これからそういったところも肉づけしていく段階かなと思います。

○松塚委員

スープはインスタントのような軽いものでよいと思います。

○会長

そのような諸条件を加味した上でのグランプリの開催を提案してみてもいいでしょうか。久保田委員、いかがでしょうか。今後の展望などをお話いただければと思います。

○久保田委員

商工会議所まつりで開催したグランプリは大曲商工会議所に参加しているお店が対象で、藤井聡太さんに提供された仙北地域のバンフィールは、大曲商工会議所の会員でないためグランプリには出展していません。大曲商工会議所と大仙市商工会の垣根を越えて市全体のオープンカツグランプリが開催できるのは、市なのかもしれません。登録店が増えて市全体を対象としていってほしいと思います。

実は、大曲商工会議所青年部でオープンカツを紹介するマップを作成しました。クレジットカードサイズで財布に収まります。二次元コードを読み込むと、更新可能なPDFのマップがそれぞれのお店についていて、どこかのお店で情報を更新した場合、青年部でカードデータも更新していきます。紙で用意しましたが、一回作成して終わりではなく更新力があるものにしていきたいと思います。

提供店舗にサインポールのような統一されたのぼりがあってもいいと思います。どこで食べられるのかあまり知られていないので、以前にもお話ししたことがあります。床屋にあるサインポールのように配色が違うといった感じで、「大曲に行くと奇妙なオレンジ色のサインポールが回っている」というインパクトになるかもしれません。

青年部のオープンカツを知らない若い世代からは、マップカードが「ださい」と言われることもあります。オープンカツ自体が時代に合っているかわかりませんが、若者向けにオープンカツをアップデートしていくためには、インターネットに慣れている若い世代にオープンカツを食べてもらい発信してもらうことが必要で、プロモーションビデオの作成がそれにあたると考えています。実際青年部の若手職員は、インスタグラムでストーリーズやリールなどの短い動画を作って日々発信し盛り上げています。若い世代が中心となって情報発信し広げていってほしいということが、今回一番提案したいことです。

○会長

ちょっといいですか。ださいという言葉が出ましたのであえて申し上げますと、ださいはまずです。私の義理の兄は、小・中・高を通して野球をやっていて、仲間と一緒にパークに食べに行っていました。オープンカツはスポーツマンが食べるような雰囲気があったのでおしゃれではないです。先ほど松塚さんがおっしゃった通り、やはり年配の方には食べきるのは難しいので、そこを上手にアレンジしていくことでオープンカツをブランド化できると私は思います。

プロモーションビデオも久保田さんが言ったように、市が先導して早めに作り上げるのがいいのかなと私は思います。それに付随して他のものが追随していくような形をとるべきなのかなと思います。

○久保田委員

プロモーションビデオの作成がとても重要だという話に付随しますけれど、1回作ればよいというものではないということがとても重要です。先ほどのストーリーズやリールのように更新し続けていくことが大切です。毎日オープンカツを食べ続けるのは難しいですが、それくらいの気持ちでやっていこうという話を、青年部では私は話し続けています。

発信し続ける、更新し続けるという姿勢がとても大事だと思っています。メンバーもたくさんいるので、「今日一緒に食べに行こうよ」というところから始めて発信する。そういうシンプルな流れで更新を続けていってほしいと思います。

○会長

先ほどの話にちょっと戻りますが、久保田さんが自分1人では乗り越えられない壁だというような話をしました。大曲商工会議所としてはできることに限界があるので、市が最初に動き出すことで、大仙市商工会も動かざるを得なくなると思います。そうした中でこのグランプリを開催することを将来的な目標とするやり方の方が、アプローチの仕方としてはよいような気がしています。次に進みますので、もし何かございましたらお願いします。これは検討課題として市で本格的に考えてほしいですね。

○生田目委員

食生活改善推進員では、学校を回って郷土料理などを伝える活動をしています。オープンカツが地域のソウルフードとして定着していけば、私たちもボランティアとして学校の先生と連携し、子どもたちと一緒にオープンカツの調理体験もできると思います。子どもたちが家に帰って「今日、オープンカツ作ったよ」と話題にしてくれれば、家庭にも広がり繋がっていくような気がします。

○会長

良い意味で覚醒にもなるし、子どもの言葉には親は敏感なので、これがPRに繋がる可能性があると思います。

他になければ、次に進んでよろしいですか。これは重要な検討課題ということでお願いします。議題2の地域課題の協議についてを終了いたします。

続きまして議題の3、はなび・アム及び南側駐車場の活用についてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○事務局（高橋主幹）

【資料に基づき説明】

○会長

ただいま事務局から、はなび・アム及び南側駐車場の活用についての説明がありましたけれども、皆さんからご提案とご意見等あればお願いします。

ちなみに市がここを借りている背景は何かをやるためだったと思いますけれど、スタート時点での構想は何だったのでしょうか。駐車場が足りないからですか。これだけのスペースを使うとなると、例えば丸子川の北側だけでいつもイベントをやっているの、南側でも同時に何かやれば、人が周遊するのではないかと思います。

○深谷委員

花火の日に毎月イベントを開催しているとありますが、どんなことをやっているのでしょうか。

○事務局（高橋主幹）

6年度の状況になりますが、4月に春の章に関連したイベントを実施したり、5月には花火柄の草木染め体験、ほかにはサブカルマーケット、秋の章関連イベント、クリスマスの工作など毎月趣向を凝らしてイベントを開催しているところです。

○深谷委員

それについてPRや告知はしているのですか。

○事務局（高橋主幹）

はなび・アムではホームページやSNSで情報発信していますので、花火の日イベントについても積極的に発信しています。広報でもお知らせしています。

○会長

はなび・アムの周辺に住んでいる人にとっては身近でも、深谷さんや私のように離れて住んでいると知らないのは無理もないと思います。広報もまめに目を通す時もあれば、忙しいと見過ごしてしまいますので、もっとわかりやすい周知方法があればよいですけど、例のプラットフォームとは全然関係ないのでしょうか。

○事務局（高橋主幹）

イベントカレンダーでもお知らせしていると思います。

○長屋委員

さっき久保田さんがおっしゃったように、例えば私のお店でも来月や4週間後にイベントがあるとしたら、1回や2回では全然伝わらないので、同じ内容を繰り返し何度も周知しないと広がっていかないと思います。

○松塚委員

南側の駐車場は舗装されていなくて入りづらいので、舗装整備することが先ではないでしょうか。

○後藤委員

南側は、はなび・アムでイベントを開催した時の駐車場として活用されていると思いますので、この駐車場でイベントをやった場合、皆さんどこに駐車するのでしょうか。

南側でイベントをしたら、災害が不安視されている中、川が氾濫しそうだから避難するという体験を実際したことがないので、災害時に備えて避難の練習や体験をするイベン

トに使えたらよいかなと思いました。駐車場でイベントをした時の駐車場を考えると、大きなイベントは難しいと思います。

○事務局（高橋課長）

駐車場に関しては、道路を渡った遊水地や丸子川ナイトマーケットをやっている中通街区公園が使用できるのかなと考えています。広い敷地ですので、お店を出すのも一つの手でしょうが、それとは違う大がかりなことを何か仕掛けられればいいなというところですね。

○後藤委員

広く活用できる場所が他にあるので、あえて南側駐車場でやる必要性があるのかなと感じています。

○事務局（高橋課長）

丸子川ナイトマーケットが開催される時に、はなび・アムの駐車場でもイベントが計画された話を聞いていますが、はなび・アムの建物が背を向けている場所のため、はなび・アム側でイベントを開催しても、ナイトマーケット側からは何をやっているかがわかりづらくて実施に至らなかったようです。

例えば、今提案されているフラッグや明かりをはなび・アムの方まで装飾できれば、人が流れてくることも考えられます。

○松塚委員

南側駐車場との間にある塀を取り払うと、はなび・アム側からナイトマーケット側に明かりが通るのかなと思います。

○久保田委員

イベントをやることを前提にどんなイベントをやるかという話の方が建設的だと思います。先日駅前でバイロカル大曲というイベントがありました。マルシェの形態で商店が並んで人が集まりましたが、このようなイベントは1日ないし2日ぐらいだと思います。1週間、1ヶ月のイベントとなるとなかなか難しいです。角間川のイルミネーションはどれくらいの期間やっているのでしょうか。イルミネーションのようにずっとそこにあれば、「撮影しに行こうよ」、「遊びに行こうよ」となります。マルシェタイプではなく、イルミネーションのように一晩限りや一過性でない長期設置型イベントは、維持するための人員がいなくて、お金を払う必要もなく、自由に来て遊べて安全です。

資料に活性化に繋げてと書いてありますが、どう活性化に繋がたいかが重要だと思っていて、ここに人が集まることなのか、それともここを活用して良いことをやっていると思ってもらうことが大事なのか、いろいろあると思います。どう活性化したいのかも盛り込めれば、何をやるかがわかってくるような気がしました。

○事務局（高橋主幹）

貴重なご意見ありがとうございました。今日いただいた意見ははなび・アムにも伝えて、どう活性化したいかというところをはなび・アムと地域活動応援課でもう少し練り直して、検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○会長

以上で、議題3のはなび・アム及び南側駐車場の活用についてを終了いたします。

続いて報告の1、はなび・アムと周辺の取り組みについて事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（高橋主幹）

【資料に基づき説明】

○会長

ありがとうございます。ただいま事務局から、はなび・アムと周辺の取り組みに関する令和6年度の実績と令和7年度の取り組みについて説明がありましたが、皆さんからご意見等がございましたらお願いします。

なければ、報告の2、令和6年度地域枠予算の活用実績について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（菅原主幹）

【資料に基づき令和6年度地域枠予算の活用実績を説明】

続けて、令和7年度地域枠予算の活用状況について説明させていただきます。

【資料に基づき令和7年度地域枠予算の活用状況を説明】

続けて、地域づくり事業補助金について説明させていただきます。

【資料に基づき地域づくり事業補助金を説明】

○会長

ありがとうございました。ただいま事務局から地域枠予算の活用状況についての説明がありました。何か質問等がございましたらお願いします。

○佐藤委員

私は藤木地区の住民ですが、藤木地区コミュニティ会議では他の地区でどういうことをやっているのかが全くわからないそうです。去年試しにこの資料を事務局に渡したら大変参考になったそうで、今回も渡してよいでしょうか。活動がマンネリ化して面白味がなくなっているところがあるので、他の事例を見て我々もこれはできるんじゃないかという気持ちにもなります。

○事務局（菅原主幹）

個人情報でもありませんので、そういった活用の仕方であれば全く問題ないと思います。

○後藤委員

一覧の8番の大曲地区コミュニティ会議に所属しているのはどんな人ですか。

○事務局（菅原主幹）

大曲地区の自治会長で構成されている会です。

○松塚委員

各町内会長が集まった会です。

○会長

基本的にコミュニティ会議は全てどこの地区もそうです。

○松塚委員

大曲地区コミュニティ会議は、駅からまっすぐ見て右側が北西ブロック、左側が中央ブロック、警察署から南側が南ブロック、線路より東側が東ブロックと4つのブロックに分かれていて、はなび・アムは中央ブロックになります。

○深谷委員

私は、大川西根地区コミュニティ会議に所属していますけれど、7年度の申請がまだされていませんが、先日総会がありまして昨年と同様に、ウエストフェスタを10月4日の秋の章の花火の日にやることに決まりました。いずれ申請があると思いますのでお願いします。

○会長

他になれば、以上で次第5の報告を終了いたします。本日の議題等については以上であります。

続きまして、次第6のその他に移ります。事務局からお願いいたします。

○事務局（高橋主幹）

今回の地域協議会ですが、大仙市では次期行政サービス改革大綱の策定年度となっています。担当部署はDX推進課になりますが、地域協議会委員の皆様からのご意見を頂戴したいということで、2回目の地域協議会で大綱の説明をさせていただきたいとお願いがきています。そこで次の地域協議会ですけれど、8月上旬のお盆前に開催させていただければと考えていて、皆さんから意見もいただいて会長と日程を決定したいと思っていますとこ

ろです。

2点目ですけれど、地域協議会の開催場所についてこれまで大曲の庁舎でやっていましたが、今地域協議会で、はなび・アムを拠点とした地域の活性化を協議していただいていることもありますので、今後ははなび・アムで開催できたらよいと考えています。

この2点について、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

○会長

皆さんからご意見等、質問等がございますか。よろしいですか。

○松塚委員

会場は固定した方がいいです。

○事務局（高橋主幹）

場所は、はなび・アムに固定して開催したいと思います。2回目の開催時期は後日鎌田会長と相談して日程を決めまして、早めに皆さんの方へ通知させていただきます。

○会長

皆さんから他に何か意見等、質問等があればお願いします。

無いようですので、これをもちまして本日の会議を閉じさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

(午後7時50分 閉会)

大曲地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員
